

百
合
リ
ン
グ
大
純
愛
本
い
も
と
と

FANTASY END

2023/C102
春夏秋冬

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



ロール紹介



huyuri
転移者

剣と魔法の世界に
飛ばされてきた。
転移前や直後の
記憶がちょっと
モヤモヤしている。



huuno
獣犬人

犬族の獣犬人。
ちっちゃくて可愛くて
元気な子が多いので
ペット需要は多いが
鋭い爪は悩み所。



tsukiyo
聖職者

誘拐、拷問を行う
リョナ教団のシスター。
本人は教えに従い
100%の善意で行う
というのが厄介。



hinaho
画家

時代を先取りした
えち絵で人気の
イラストレーター。
その同人誌は
一部界限では
教科書扱い。



yukina
獣犬人

牛族の獣犬人。
気性が穏やかで
よく搾乳のために
連れ去られて
家畜にされている。



usagi
酪農家

家業で牛族の
乳搾りをしている。
妹の世話も
させられているため
いつも不機嫌顔。



kohane
ハイエルフ

エルフ族の王女。
不老で長く生きすぎて
後天的コゾが多い
エルフ族の中で
先天的な真性ドM。



mizumi
略奪者

森のエルフ等を襲い
金銀を奪い、捕虜は
奴隷として売っている。
気に入った子は
自分の物にする時もある。



akisora
妹



kiiyu
天使



si i
女又素素商



chico
兽犬人

ふかりと一緒の転移者。本当は妹だけど妹なの。ふかりに逆えず絶対服従の奴隷妹にされてる。世界の秩序を司る。ちやうど可愛いので飼いたい人は多いが皮力が非常に高く。大地の皮法をレジストする。反抗的、従順でない。奴隷を仕入れて調教して売り捌く。商品に恋しちゃうのはゴ法度。ねこの兽犬人。とても可愛くて主人に服従するのでとても人気があり乱獲されている。



ooka
サキュバス

可愛い子を攫って皮力を吸い尽くす悪皮。頭にいるやつは使い方的なやつでいろいろ酷使される。



chigusa
冒険者

皮法使いタイプの新米冒険者。これから首都に行き組合登録するのでまだまだヒクニック気分。



tanpopo
人魚

幻と言われる生物。不老不死なのでちょっと感覚が普通とズレてるところがあるけど悪気はない。



mike
庶民

特筆する所もないただの普通の庶民。将来の夢は学校の先生になる事。ちやいのに云らい。



Sa-sya
貴族



honowa
使用人



fia
研究者



shirasuha
歌姫

なんかすこい
貴族のご息女。
メイドにも優しくて
人気があるけど
権力闘争に疎い。

サーシャ家にはる
可愛いメイドさん。
主人への熱意がない
ので料理掃除も
普通にできる。

冒険者のような
才能はないけど
魔法を発展させるため
研究している人。
ちやいのにいらい。

世界で人気の歌手。
その貴族より
金も力もあるけど
使いたい事もないので
持て余している。



NYA-
もも
ねこ



注意！

この本はいもとと。if本です。
本編とはあまり関係ないので
気軽に読んでみてください。

妹とご主人さま。



<http://harunatsu.net/imototo/top.html>

獣人よりもねこ寄りらしい。
獣人との違いはよく
分からないけど、
現地人にお通じる
感覚があるとのこと。



異世界日記一ヶ月目

ある日突然いつもの学校から魔法の世界に飛ばされて早ひと月、元いた場所や飛ばされた時の状況も頭がぼんやり霞がかっていてよく思い出せず、半分記憶喪失みたいな状態だったけど、運良く優しい教会の人に保護されてなんとか生活できるように。今日は恩返しも兼ねて獣人捕獲のお手伝い。獣人は知能が低いので駆除自体は簡単なんだけど、こんなにちっちゃくて可愛くて人権も無く好き放題できる獣耳の子をただ殺しちゃうのは動物愛護の観点からでもいいけないので保護してペットにしてあげる。わたしは神聖魔法の強適正があって強力な回復魔法が使えるみたいなんだけど、今まで犬の獣人は鋭い爪があって御主人様を傷つける心配があり、手を焼いていたらしい。そこで手足を切断した瞬間に完全回復魔法をかける事で安全に四肢を切り落とす事に成功。可愛くて安心な犬の獣人はペットショップで高い値段で売れて教会の資金にもなってとても感謝されました。手足を剣で両断された犬は激痛に悲鳴を上げて泣き叫びます。そんな姿も可愛いんだけど放置してたら死んじゃうからすぐ回復。手足を切断された子は、その短い手足を必死にばたつかせながら「助けて、助けてえ……！」って泣きながら叫んでるけど、一度切断されたらもう助からない事は既に知れ渡ってるらしくみんなその子を見捨てて一目散に逃げていきます。肉団子みたいな姿になり草むらに転がって、まだ四肢が無い事を受け入れられずもどもど動く姿はとっても惨めで可愛すぎです。つま先で仰向けに転がしてから「今日から貴方も奴隷ペットの仲間入りだね♪いっぱい可愛がってあげるから楽しみにしててね」って言ってあげると、小さく縮こまって小刻みに震えながら「やだ、どれい……痛いよ、やだよあ……」って言ってる姿を見るとあまりの愛らしさに心がきゅんって音を立ててしまいます。うーん、今まで斬ってきた子も十分ちっちゃくて可愛かったんだけどこの子は特に可愛い……。ちょっと痛めつけた途端、恐怖でちっちゃく丸まって震えちゃうところがもう本当に愛おしいよね。なんだかこの子はペットとして運命的なものすら感じちゃうし、教会の人に飼いたいって言ったら快く許可して貰えました。これでこの子は今日からわたしのペット。ほら、異世界で最初に仲間になる子は大概ちっちゃくて可愛い獣人の奴隷の女の子って決まってるし、約束通り毎日いっぱい虐めてかわいがってあげる。記憶はまだぼんやりだけど、これからとっても楽しくなりそう！



異世界日記二ヶ月目

以前お助けしたふゆりさんが獣人の保護を手伝ってくれたおかげで
リヨナ教団の資金難は大きく改善されましたが安心はできません。
依然として世界には救うべき悪魔憑きの仔羊がたくさんいます。
先日強制保護したこのひなちゃんという子は悪魔に腕を操られて
とてもえっちな本を自費出版してまで世界中へばら撒くという
許されざる大罪を犯しました。ですが悪いのは憑いた悪魔なのです。
なのでまずはその手と、オマケで足を切り落とし、火に焚べて
灰にしてあげます。これでもうひなちゃんは一体なにが楽しいのか
知りませんがわざわざ労力かけて絵など描かなくても良いのです。
燃えていく様子を目の前で見せてあげると、「あ、ああ……
ひなの、大事な、腕がぁ……」と涙を流して喜んでくれます。
ですがまだ安心してはいけません。悪魔は身体にも入り込んでます。
悪魔は痛いことが嫌いなので、リヨナ教団の教えに従って
まずはひなちゃんを徹底的に拷問して痛めつけてあげます。
可愛い女の子は悪魔と対極の存在であり痛い事が大好きなので、
虐めても気持ちよくなってくれたら悪魔が完全に抜けた証拠です。
乳首にピアスを打ち込み重しをぶら下げると、ひなちゃんは
空けたばかりのピアス穴を引っ張られる痛みで悲鳴を上げます。
ああなんとえっちな声なのでしょう、まさに悪魔が誘惑する声です。
わたしは聖職者なので耐えられますが普通の人には墮落確定です。
「これからとっても痛いことをしますが全てひなちゃんのためです。
頑張って耐えて、そして気持ちよくなってくださいね」と言って
真っ赤に焼けた鉄をひなちゃんのお尻に強く押し付けます。
「ぴぎゃあああああああ————ッッッ！！！！？」
ひなちゃんは絶叫しながら暴れようとはしますが、手足の無い
可愛らしいイモムシの身体では逃げる事などできません。
白い煙と肉の焼ける音が広がり、全身から汗が吹き出てきます。
「ああ、ひなちゃん可愛いです……♡」人の劣情を沸き立たせる者は
悪魔による墮落への誘いというのがリヨナ教団の教えです。
あんなちっちゃくて可愛いのに全裸で駆け回っている獣人など
まさにその象徴、一匹残らず保護してあげなければなりません。
だからわたしにはひなちゃんを悪魔から救う責任があります。
勿論教団は途中で飽きて見捨てたりなどしません。ひなちゃんが
虐めても気持ちよくなってイッチャウ身体になってしまって、
わたしがその姿を見ても全然えっちなだと感じなくなるまで
一生、死ぬまでもひなちゃんを虐め続けてあげるのです。



異世界日記三ヶ月目

酪農家の朝は早い。特に最近はず足を切り落とされてまさに達磨みたいになった牛の獣人がたくさん市場に売られてくるので搾る頭数が多いくせに人手は足りず今日も朝っぱらから重労働。「ひ、ぎゅううう……っ」と、四肢末端の脂肪に鉄輪を通して天井から吊るされてる牛が発情したような呻き声を上げている。もちろん獣人に人権なんてないのでどう扱おうと持ち主の勝手。朝から聞きたくもない発情声を聞くほうの身にもなって欲しいと思いつつものように乳首を握り、膣の中に拳を突き入れる。「あっ、ふあぁ……っ！ 苦し……っ、お願い、少し、優しく……」そんな声を無視して乱暴にグーを出し入れしながら乳首を思いっきり握りつぶすと、熱い吐息がどんどん激しくなっていきぷるぷる震える身体がやがて限界を迎えたように痙攣して大量の白濁した乳が下に置いたバケツに向かって吐き出された。「ふあぁぁぁぁぁー……ッッ！！！」とろんと蕩けた表情、まるで痴女の自慰を手伝ってるみたい。なんでうさぎがこんな事をせねばならんのだ、そんな怒りをグーに乗せて子宮を殴りつける。その度にぐっぐっ、と苦しそうな声を出すけど、痴女の雌牛は痛めつけるほどさらに興奮して大量の乳を出すから問題ない。その証拠に肉穴からは大量の愛液が溢れて服に飛び散り染み込む。痴女液の匂いは中々落ちないので一日中身体から痴女臭がしてえっちな気分になるから困るのに。うちの牛乳は他より甘くて濃厚で人気があるらしい、というのもこの雌牛どもは大人しい種族なので今まで知られてなかったけど虐めれば虐めるほど喉に絡みつく濃いマゾ牛乳を大量に吹き出す。手足を失って一切抵抗できない状況はよっぽど興奮するらしく、牛舎内は雌牛の甘ったるいミルクの匂いで充満している。左右の乳を搾り終わった雌牛は「んっ……ふひゅあぁぁ……♥」と何度もイッて疲れ果てた顔でぷらぷらと吊り下がっている。人に自慰の手伝いをさせておきながら満足そうな顔をしてるのも苛ついたので妊娠して大きく膨れ上がったお腹を蹴り飛ばしてあげると、ぷぎゅっと変な声を出して苦しがっていた。これから他の雌牛の搾乳も終わらせたらミルクの濃度を高めるためお昼の搾乳の時間まで身体を痛めつけてあげないといけない。痴女ボディを殴ったり蹴ったり、鞭を何百回も叩きつけたり、クリトリスピアスを引っ張りながら気絶するまでイカセ続けたり。ほんと淫乱変態雌牛痴女の相手をするのは手間がかかるんだから。



異世界日記四ヶ月目

今日は少し前に一人森で隠れてオナニーしてるところを捕獲した
変態のマゾエルフを使って久しぶりに奴隷エルフ狩りの日！
エルフ族は不老でずっと小柄なままだから奴隷として高く売れるし
それに不死ではないけど回復力はとっても高いので、捕獲したら
まずは手と足を切り落として逃げられないよう身体を加工する。
次に延々休む暇なく拷問し続けて完全に精神を壊してあげたら
自分の隠れ集落の場所を吐かせて襲撃。高価な装飾品を強奪し、
仲間のエルフを全員奴隷として売って大金で遊んで暮らすんだ。
乳首とクリに重いピアスをぶら下げて最前線に吊し上げることで
弓が得意なエルフ族が迂闊に攻撃できないようにして略奪開始！
集落を囲うように火をつけたら逃げ惑うエルフを片っ端から捕獲。
「ほーら！ 抵抗したらこいつがどうなっても知らないぞ！」
自分の醜態のせいで仲間が捕まっていく事にも泣く事しかできず、
首を吊るされてまともに息もできないエルフのお腹を殴れば
おごって鳴きながらピアスにつけたベルが乾いた音を立てる。
エルフ族は一集落全体が家族同然みたいに絆が強いらしいから
音色が響く度、妹が殴られていることを強く知らしめることで
見捨てられない甘々エルフは抵抗をやめて投降しちゃうってわけ。
「プ、プリンセスが虐められているなら抵抗するわけにはいかない
ですよ。というか、プリンセスだけずるいです……♥」
「あんな無惨な姿にさせられて……私達もきっと同じこと
されちゃうんですよ……♥ こんな、ただの肉人形……♥」
んー？ なんだか反応がちょっと変な気がするけど……まあいっか。
「ほら、ご褒美だぞ！」って言いながらみんなに無様な姿を晒して
乳首とクリを真っ赤に勃起させながら興奮するエルフの膣穴に
自分自身の腕を思いっきりねじ込んで突き刺してあげる。
「ひゅぐううううううー——————ッッ♥♥♥」
ぶるぶると震えて大量の潮を吹き出しながらイッたみたいで、
捕まってる大勢のエルフ達からも熱の籠った嬌声が上がる。
みずみはおっぱいがおっきいえっちでドMな子は大好きだから
集落を狩り尽くしたあとはもうこいつに利用価値は無いので本来
奴隷として売るんだけど、特別にみずみのものにしてあげる！
こいつらの溜め込んだ金銀と奴隷として売ったお金でまた暫くは
遊んで暮らせるから、毎日毎日朝から晩まで休むことなく
気絶するまで虐めて、意識が戻ればまたすぐ気絶するまで
いっぱいいっぱい虐めてずーっと可愛がってあげるんだからね！



異世界日記五ヶ月目

最近、族や教会からのルートで大量のエルフ族や獣人の奴隷を仕入れられているので、奴隷商会は調教予定もギッシリで大忙し。「ひに”ゃあああああああ————————ッッ！！！！」

今日も仕入れたばかりのねこの獣人を徹底的に拷問してあげる。ねこの獣人はとっても可愛いので人気があって高値がつくけど四肢を切り落とされて満足に動き回ることもできなくなって泣きながら必死にその場で手足を動かしてるだけの様子はさすがに愛らしすぎるでしょ、と一部界限では既に話題だ。

冷たい鉄の首輪に繋がった鎖を引っ張って海老反りにさせながら背中に手加減なしで鞭を強打する度、真っ赤な飛沫が弾け飛んでとっても可愛らしい鳴き声を私に聞かせてくれる。

仕入れたばかりの奴隷は反抗的だったり、そうじゃなくても奴隷としての振る舞い方を理解してない未熟な奴隷ばかりなのでそういう子を調教して立派な商品にして出品するのがこの仕事。「ごめんにゃさっ、ごめんにゃさいい——————ッッ！！！！」

「ごめんなさいじゃなくてありがとうございます、でしょ？」

御主人様の鞭は愛の鞭なんだから奴隷は心から感謝の気持ちが出てくるまで徹底的に調教しないといけない。もちろんうちは他の雑な商会のように口だけの感謝じゃなく精神の奥底まで二度と消えないように刻みつける徹底さがウリでもあるから何度も何度も泡を吹くまで様々な拷問にかけ続ける。

獣人はエルフほどじゃないけど傷の治りが比較的人間より早く身体も丈夫だから想像を絶するほど激しい拷問をしても大丈夫。

はぁ、ちょっと前まで野生の中で平和に暮らしていたこの子がある日突然訳も分からないまま襲われて四肢を切り落とされ何の抵抗もできず奴隷ペットとして売り飛ばされ拷問を受ける。何も悪くないのにこんな地獄みたいに不幸な目に会ってそれでも必死に我慢してなんとか運命を受け入れようとする姿がとっても健気で本当に愛おしい。だからもっともっとこの幼い身体を限界ギリギリまで虐めたくなっちゃう。

これはもう調教師というより私情に近いことは理解している。泣き叫ぶ姿を見てると鼓動が早くなり、きゅって苦しくなる。

今までたくさんの幼くて可愛い子を拷問して出荷してきたけどこんな耐えられないほどの気持ちになったのはこの子が初めて。売り物を好きになっちゃうとか商人として失格だけど仕方ない、商会長への土下座分の責任はしっかりその身体で払って貰うから。



異世界日記六ヶ月目

今日は空から小さくてとっても可愛い天使の子がやってきました。
なんか世界の秩序がどうのこうのと難しい事を言ってたけど
こんなまさに天使のような可愛さの子を飼わないなんて嘘だよね、
ということで瞬時の判断で手足と飛べないように片翼も切断。
後から聞いた話では天使族は常に物理を弾く聖盾魔法を張っていて
異常な魔力量で聖以外の魔法もかき消される無敵の存在だったけど
最近開発した斬撃に直接回復魔法を乗せた時短の魔法剣で偶然
上手い具合に脆弱性を突いて切断攻撃が通ってしまったらしい。
まあそんな事はともかく、さっそくこのきいゆちゃんって子を
秩序だの説教してきた分まで拷問して可愛がってあげる事にする。
気分を出す為に教会のお友達から借りたシスター服に着替えて
前の世界の記憶では確か天使と言えはまずは十字架に磔拷問、
極太の杭をきいゆちゃんの短くなった腕に軽く当ててから
その頭部分を木槌でコン、と軽く叩いてあげる。
「いぎゃあぁあぁあぁあぁー—————ッッ♥♥♥」
きいゆちゃんはとっても可愛らしい悲鳴を上げて泣き叫ぶけど、
その中には明らかに嬌声が混ざっているのを聞き逃さない。
コン、コン、と尖った杭が肉を突き破って押し込まれる毎に
激痛という気持ち良さでどんどん吐息が荒くなっていく。
「きいゆちゃん、イキたかったらイッてもいいからね」
「は、はいiiiiii……♥♥ イッちゃいます、御主人様ぁッッ♥♥♥」
杭が完全に腕を貫通した瞬間、きいゆちゃんは盛大に
潮を吹き出しながら身体を震わせイッてしまった。
うーん、天使の子ってこんなにドMな子ばかりなんだ。安心して、
天使族はきいゆちゃんのおかげでもう狩られる側だからね。
きいゆちゃん、次はどこに杭を打たれたい？って聞くと
「あ……ふともも……腕より太くて、絶対痛いからぁ……♥」
もー、きいゆちゃんは本当に変態マゾ思考で可愛いんだから♥
お望み通り太ももに杭を打ち付けると、その間できいゆちゃんは
連続で3回ほどイッてしまった。クリトリスにぶら下げた
重しの鉄の十字架がきいゆちゃんの愛液まみれで光っている。
教会の人の話では、天使族は体内にストックしきれない魔力を
常に回復魔法として放出し続けて捨てる状態らしく、
傷がすぐに回復するので死ぬレベルの拷問をしても大丈夫らしい。
それならもう手加減なんていらないよね、死んだ方がマシなくらい
愛してあげるから死ぬほど気持ちよくなってね、きいゆちゃん♥



異世界日記七ヶ月目

何やら近頃天敵だった天使族が次々に奴隷に身を堕としてるらしく今日は私達魔族の勢力圏を広げる下見も兼ねて田舎の村へお散歩。適当に魔力の高い美味しそうな人間を見繕っていたらなんと呑気に一人出歩く冒険者に成り立ての可愛い子を発見しちゃった。一目見た瞬間に「あっ♥ この子、私の運命の人だ♥」ってサキュバスの直感が告げたのですぐに襲いかかってお持ち帰り、まだまだ未熟で弱々なその子の名前はちぐさって言うらしい。蠢く真っ赤な特等席に座らせたらまずはその小さな四肢を溶かして消化し、絶対に逃走が不可能なようにしてあげる。あまりの激痛にちーは溶かされてる間ずーっと泣き叫んでいてとっても可愛い。ふふっ、まさか冒険に出てすぐこんな目に会って終了するなんて覚悟の無い緩んだ顔で歩いてたちーは思ってもなかったわよね。肉袋状態の愛くるしいちーのお腹と子宮に、パンパンになるまで触手を詰め込んで内臓から効率よくちー味の甘い魔力を吸収する。魔族は魔力が無いと死んじゃうのに自前では魔力を生成できない、人間で言えばビタミンみたいなものだからこれは人間たちが動物の肉を食うのと同じ、正当な弱肉強食の捕食行為であるわけ。一滴で発狂するくらい強い媚薬効果のある濃密な触手の粘液が溢れるくらい体内の粘膜から吸収されてちーは常にイキっぱなし。隷属魔法により私が生きる限り死んだり気を失う事もできないので人の寿命より遥かに長い間、ちーはこの地獄で拷問を受け続ける。ちーの潜在的魔力才能はものすごく吸う以上に回復していく、聖魔法以外も使える天使みたいな存在で順当に育っていったなら大陸一つくらい消し飛ばせるような大魔法使いになっていたけど残念ながらそんな明るい未来はもう永久に訪れることはない。ちーの可愛らしいお腹は脂汗でツヤツヤして体内で這い回る触手が胃壁を押し広げて所々盛り上がることで歪な形になっていて、ちっちな口からもお尻から侵入して体内を貫通した触手が何本も生えて蠢き、可愛いお花が咲いたみたいになっている。まともに息も吸えなくなったちーは全身ビクビク痙攣させてるけどまだまだ何百年だってこの状態のまま耐え続けなきゃいけない。どんなにぐっちゃぐっちゃんになるまで愛してあげてもちーはそれを受け止めて、壊れた蛇口みたいに溢れる愛を注ぎ返してくれる。サキュバスの私が逆に魅了されちゃうなんて笑える話だけどちーと一緒に幸せなんだからこれも一つの愛ってことよね♥後で天使族を狩ってくれた人達にもお礼しに行かなくちゃね。



異世界日記ハヶ月目

陸の上は近頃騒がしいみたいですが、海の中では関係ありません。昨晚の大嵐で沈みかかっている船があると聞き心配で行ってみると海に投げ出され、今まさに死ぬ間際の小さい可愛い女の子を発見。人間さんに姿を見せちゃダメなんだけどあまりにも可愛かったので思わずわたしの血肉を口に含ませてその子を助けてしまいました。人魚の肉を食べた人間さんは不老不死になります。でも人間さんは水中で息ができずすぐに溺れ死んで、即座にまた生き返ります。だからちょっと息苦しいんだけど死ぬよりは良いに決まっています。不老不死になった人間さんは掟で地上に帰すわけにはいけないので深海の底でずーっとわたしと一緒に暮らします。えへへ♪

まずはシビレイソギンチャクくんの中に人間さんを沈めます。神経毒で全身麻痺して動けなくなりながら意識と痛覚はいつもより鋭敏に覚醒するので、神経に直接ヤスリをかけられるような激痛に延々と侵されながら逃げることもできなくなりました。

海に生きる以上はお魚さんたちとも仲良くしないといけません。四肢は鮫くんとかの大きなお魚さんに食い千切られて餌になり、不死の力で暫くしたら生えてくるけどその度にまた食い千切られて抵抗もできず、一万年でも一億年でも無限に引き千切られ続けます。地上ではアシッドオクトパスと呼ばれてるらしい酢ダコさんは肌を一瞬で溶かす強力な酸を分泌するタコ足を喉から体内に入れて内側をじゅるじゅるに溶かして足先の吸引口から吸って食べます。痛さは言うまでもなく溶けた鉄を流し込まれるような拷問です。電気ウナギくんは放電するよりも噛み付いて歯で皮膚を突き破ると肉が焼けるくらいの電流を直接体内に流し込むことができます。乳首に噛みつかれて即死電流を流された人間さんは小さな身体が大きく跳ねて痙攣するけど、イソ毒効果で気絶する事はありません。子宮の中は色んな小型のお魚さんが産み付けた卵でパンパンです。子供が孵ったら子宮肉をついばみ、食い破って海に出ていきます。この餌場ができてからこの海域はとても平和になりました。お互いに争って捕食せずとも甘くて美味しい子供肉がいくらでも食べられるまさに飽食の時代、それも全部この子のおかげ。クリトリスを歯で噛み潰して食い千切ると煮えるように熱い潮が海底温泉みたいに吹き出して辺り一帯を甘くしてくれます。もうみんなこの子の肉以外は食べる気が無くなってしまいます。でも大丈夫、この子はこれからも永遠にここで死に続けながらみんなの餌となってお腹を満たしてくれる、とっても偉い子です。



異世界日記九ヶ月目

お姉ちゃんという存在は妹がいないと生きていけないもので、あきと一緒に転移してなかったら私は妹欠乏症で死んでました。そういうわけで今日は狩りもお休みだから一日中妹を虐める日。あきは四肢切断の一番最初の実験体、ただでさえ可愛い妹がころんと丸い肉団子になっちゃってる様はとっても愛くるしい。足で抱えるように抱きあげればただでさえちっちゃいあきの身体がすっぽりと収まって小動物みたい。それでいておっぱいとかの柔らかい所はぷにぷにで、滲んだ汗の甘い匂いがふんわりと漂う。そういえばこの前お友達になった子から良い薬を貰ったっけ。乳首に一滴塗るだけでも発狂しちゃうくらい強い媚薬だからちゃんと使用量を守りなさいよねって言われたけど妹だし大丈夫、一瓶丸ごとお尻の穴に突っ込んでラッパ飲みさせてあげます。途端にあきの身体からはトロトロした脂汗が滝のように流れ落ち、顔を真っ赤に紅潮させて目を小刻みに震わせながら痙攣して数分も経たない間に10回以上もイッてしまいました。わたしと触れるだけでも感じすぎてイッてしまう状態みたいだけどここからいっぱい虐めて痛くしてあげたらどうなっちゃうんだろ？乳首に通した大きなピアスを引っ張り上げながら、コリコリと乳頭を揉み解して虐めてあげます。柔らかい乳首の中に硬い芯が通ってる感触があって、そこに押し付けるように潰してあげれば「くひゅう」ううううーッッッ♥♥♥♥」って痛くて気持ちいい刺激に半狂乱で声にならない声を上げます。乳首を弄られただけでもイッちゃうのを止められなくなっていて、最初と合わせて100回以上イッてるから先が思いやられます。次はひくひくとヨダレみたいに愛液を垂らしている割れ目の中に無造作に手を突っ込むと、沸騰するくらい熱くてぬるぬるの膣壁は驚くくらいあっさりとなたしの手首まで受け入れちゃって乱暴されるために生まれてきたようなマゾ穴に思わず笑っちゃう。狭い幼膣内で手をグッパグッパしてあげれば、その度にあきは100回単位でイキまくって潮を天井まで噴き上げながら悦ぶ。脱水症状になったって手足も無く抱っこされてるあきは逃げられず身体中の水分を甘い潮として吹き出すまで許して貰えません。気がつけば空の媚薬瓶が何本も転がってます。きっとあきの体内の水分は全部媚薬に置き換わってしまったんだと思うけど、でもこれでえっちな事しか感じられない淫乱なマゾ妹として一生あきを虐め愛してあげることができるようになったのです。



異世界日記十ヶ月目

古いお屋敷にはもう使われてないような部屋がたくさんあって
ここはその一つ、昔の奴隷用のトイレとも言い難い排泄場的な所。
お嬢様は切り落とされて短くなった手足の先にいかにも趣味の悪い
純金のフックをつけられ、出てこれないように鎖で繋がれています。

「はぁ、お嬢様ぁ……♡ 醜い姿でとっても可愛いですわぁ……♡」

「ほの、わ……ちゃん……どうして、こんな……こと……」

初めて出会って声をかけられた時から一瞬で恋をしてしまったけど
わたくしは使用人だから決して許されない恋、それならばいっそ
お嬢様の身分を貴族から奴隷にまで墮としてしまえばいいのです。
まさか使用人に嵌められるとは思ってなかったのか警戒心も無く
実にチョロくてあっという間にお屋敷ごと乗っ取りましたわ。

もっともわたくしはお嬢様一筋、権力が欲しいわけではないので
いらない物は適当なお金持ちにでも売っ払ってしまいますけど。

「さぁお嬢様、餌の時間ですわぁ♡ いっぱい飲んでくださいませ♡」

「おごっ、きゅふううううう……ッッッ！！！！」

お嬢様の上で下半身を晒して跨り、下腹部にんっ、と力を込めると
溢れ出た尿がお嬢様のお腹に垂れておへそに黄溜りを作ります。

さらに勢いよく押し出し可愛らしいお顔まで尿塗れにしてあげると
開口具で口を閉じられないお嬢様はシャワーみたいに顔にかかる
新鮮なわたくしのおしっこを苦しそうに飲み干してくれます。

その惨めな姿のお嬢様はとっても被虐的な魅力に溢れていて

やはりお嬢様は苦しめる姿こそが一番似合うのを実感します。

排泄場の窪みの中には飲みきれなかったおしっこがたっぷり溜まり
腐敗してひどい匂いを発していて、気持ち悪い虫まで湧いています。

そのまま溜まり続ければやがて開いた口の中に流れ込んで

お嬢様は腐った尿を何度も吐き出しながら必死に飲み干すのです。

「あぁっ♡ もう愛おしすぎてたまりませんわぁっ♡♡」

お嬢様に見て貰いながらわたくしもクリを弄ってオナニーすれば
あまりの興奮であっという間にイッてしまいました。

もちろんお嬢様のお身体も気持ち良くしてあげる事は忘れません。

足指でピアスを引っ張り、乳首をギリギリと伸ばしてあげます。

こんな事をされてるくせにすぐに感じて身体を震わせイッてしまい
おしっこの中にふたり分の愛液が混ざって甘い深みを出します。

こんな可愛らしい便器をこれから一生使ってあげられるなんて

とっても幸せで、使用人になって本当に良かったですわ。

きっとお嬢様も今のほうがずっと幸せに違いないですわよね♡



異世界日記十一ヶ月目

姉妹みんなでふいあちゃんと一緒に住む大きい家を探していたら丁度いい物件があったのでおまけのメイドさん付きで購入。わたしたち姉妹は全員とも同じくらいふいあちゃんの事が大好き。ふいあちゃんはわたしがパトロンとなって資金や人脈を提供し魔法機械の開発や古代技術の解析などをしていたんだけど、先日ついにずっと欲しかった四肢を亜切断する魔法機械を開発、根回ししていたフェーズを発動してふいあちゃんを失踪扱いで誘拐、監禁して念願の小動物ペットとして飼うことに成功。

自分を虐めるためのものを自分で開発させられていた事を知ったふいあちゃんの泣きそうな顔は愛くるしすぎて忘れられないよね。世間でも四肢切断の魔法剣みたいなのが開発されてるそうだけど神聖魔法に強い適性が無いと使えず、そんな力無き者の夢でも叶えてあげれるってのが魔法機械の理念だったよねふいあちゃん。一番最初の実験は開発者がするものでしょとか適当に言い包めてふいあちゃんの四肢を外し、実験は成功ね、早く戻しなさいよって言った瞬間漂う空気にまずい事をしたって気付いても既に手遅れ、ふいあちゃんの手足が本人の元に戻る機会はもう二度と訪れない。もう無いけど次があったらちゃんとセーフティ機能は付けようね。柔らかいベッドの上で全裸に剥かれたふいあちゃんは、連日連夜姉妹たちの手で代わる代わる犯され続けていて、もう何ヶ月もまともに眠る事すらできず全身を弄られ、常に飽和した快感を受け「もうっ……ひゃへ、へええええええ……っっ♥♥♥」

ってとってもえっちに蕩けたメス声で鳴くことしかできない。乳首もクリトリスも膣穴もお尻の穴もくすぐったいおヘソや脇腹、とにかく全身余すところなく同時に責められ続けているのでふいあちゃんはズーっとイキっぱなしでシーツは蜜液で水浸し。取り外した手足はふいあちゃん自身の狭い幼膣に突っ込んだり休憩してる姉妹が指や太ももを股に擦りつけて自慰したりしてる。「ほらふいあちゃん、これは淫売女のピアスって言ってね、

1個つけるだけで絶頂が止まらなくなる魔導具なんだけど

これを乳首とクリに3つもつけちゃったらどうなるのかな？

研究者の義務としてふいあちゃんの身体で実験させてあげるね♥」脳細胞が壊死するくらいの快感でふいあちゃんはもう獣のように悦楽に泣き叫ぶことしかできなくなって、知性なんて欠片も無い。最近教会の人達が魔族と仲良らしく、人格崩壊する違法魔導具をたくさん譲ってくれます。もうすっかりいい太客になっちゃった。



異世界日記十二ヶ月目

今日はこの一年で仲良しになったお友達を招いて夕食パーティー、昔よりもかなり大きくなった教会施設の一室を使わせてもらって、とおきの手料理を振る舞ってみんなをおもてなしします。

「わー♥ とっても柔らかくて美味しそうなねこさんだねー♥」

みんなの拍手で迎えられた大きな銀皿の上には四肢を切り落とされマンチカンみたいになったペットのととが横たわっていて、そのお腹の上には丹精込めて作ったわたしの手料理が並びます。小さくて可愛らしい膣穴にもナイフとかの食器を突き刺していて、みんなで好きなものを取って食べるバイキング形式です。

「とと、今日のお品書きを教えた通りみんなに説明しなさい？」

「は、はいです……その、本日は、ととのお肉のフルコース、です……。

生ハムはととの、ふ……太ももを丸々、一本使って、おります……。

他の、ステーキ、唐揚げ……ハンバーグ、も……あの、ととの、

……ぐすっ、ととの、お肉100%でできています、です……

みなさんどうぞ、ととの身体をお召し上がり、くださいです……」

「あははっ、自分の肉が使われてる料理を自分で説明してるー！」

人生で一度きりの晴れ舞台に恐怖で震えるととの頭を撫でながらみんな早速美味しそうなとと料理にフォークを突き刺します。

あ、ちなみにつきよさんは宗教で女の子の肉を食べちゃダメらしく一切れ取って外で焼いて灰にしてるらしいです。もったいないなあ。

「んー、ジューシーですわ！素材が良いから脂が甘いですわね！」

「焼き方も絶妙なレア加減で」ととさんの美味しさが溢れる肉汁からしっかりと感じられて、噛めば噛むほど旨味が溢れてくるね♥」

「ふふっ、膣穴のスプーンを動かすだけでもすぐイっちゃうのね♥

これをソースにすれば味が変化していくらでも食べれそう♥」

「乳首も勃起して、これ以上膨らんだら私が切って食べちゃうよ？」

みんなそれぞれ好きなようにととのお肉を楽しんでくれる。

ととは自分のお肉が噛み千切られる度に小さく身体を震わせて、切り離されてもう感覚なんて無いのにまだ自分の身体みたいに思ってるせいで無いはずの痛みを感じてるらしくて愛らしい。

「そういえばふゆりん、これで奴隷4匹目？一人じゃ多くない？」

「うーん、そうなんだよね。お家もそろそろ手狭になって……」

「あ、じゃあわたしのお屋敷でみんな一緒に暮らさない？」

そこで毎日たくさんの可愛い女の子を好きに拷問して過ごすの。

お金ならいくらでもあるし好みに改築していいから」

「その話……とってもいいね！」

(それじゃまるで魔王城ね……)

あとがき

今回はこのようなニッチ本を買ってくれてありがとうございます、初めましてそしてこんにちは、関根いりえです。

突然ですが百合えっちによく合うえちえち性癖が3つあります。乳首ピアス、四肢切断、その他いろいろです。なので今回はせっかくだからちっちゃくて可愛い女の子の四肢を全ページに渡ってもぎもぎしましたが、やっぱり達磨の女の子ってさらに可愛いんですよ。うつ伏せで手足をバタバタさせてるのも可愛いし、仰向けにして殴られて手足で顔や身体を守ろうとするけど短くて全然隠せてないのも本当に愛らしくて虐めたくなるよね。四肢をもぐのはリョナ界では告白と同義で、何もできなくなった女の子を一生世話しながら拷問して愛してあげるからねっていう、つまり純愛なんだよね。ニッチ本って言ったけど全然ニッチじゃありませんでした、王道ド真ん中の甘々純愛百合えっち本でしたね。ちょっと痛かったり心が壊れて狂っちゃったりしただけです。

あとページが無くて書けなかったけどこの後しらす邸は増改築を繰り返し、数多の小さい女の子の悲鳴が響く魔王城と化しますが反旗を翻したあきたち奴隷軍により崩壊させられてふゆりちゃんも調子乗ってましたって反省して奴隷は一人一匹までの純愛法を制定、それぞれ末永く拷問されながら幸せに暮らします。

でも反省の足りないふゆりちゃんは隠れて4匹飼います。

うーん良かった良かった。あと本編いもとと。もよろしくお願いします(PR)

いもととHP



FAN BOX



発行本：百合リョナ純愛いもとと。本 FANTASY END

発行日：2023/8/13 コミックマーケット100

発行者：関根いりえ(サークル春夏秋冬)

連絡先：<http://harunatsu.net/imototo/mail.html>

印刷所：ねこのしっぽ 様

